



S.Naka

THE TAKARAZUKA KINEN

1着 2着 3着 4着 5着
本賞 300,000,000円 120,000,000円 75,000,000円 45,000,000円 30,000,000円
付加賞 3,612,000円 1,032,000円 516,000円



3歳以上、ファン投票および別に定める方法により選定された馬、除未出走馬および未勝利馬
負担重量 3歳53kg 4歳以上58kg、牝馬2kg減

2025.6.15 阪神 晴・稍重 芝2200m (国際指定)

順	馬番	馬名	性齢	斤量	騎手	タイム (管差)	コーナー 通過順位	上り (600m)	馬体重 (増減)	単勝 オッズ	調教師	レーティング
1	⑫	メイショウタリル	牡4	58	武 豊	2:11.1	1-1-1-1	36.0	504(-)	11.4⑦	石橋 守(栗東)	120
2	①	ベラジオオペラ	牡5	58	横山和生	3	4-4-2-2	36.4	510(+2)	4.0①	上村洋行(栗東)	115
3	⑦	ジャスティンパレス	牡6	58	M.ディー	クビ	14-14-15-14	35.1	470(-4)	31.5⑩	杉山晴紀(栗東)	115
4	⑥	ショウナンラプンタ	牡4	58	幸 英明	¾	11-11-9-7	35.9	544(+2)	55.1⑪	高野友和(栗東)	114
5	⑤	チャックネット	牝7	58	D.レーン	アタマ	12-11-12-10	35.8	484(-10)	104.2⑭	堀 宣行(美浦)	114
6	⑪	ソールオリエン	牡5	58	松山弘平	1¾	17-17-17-16	35.2	468(+2)	18.6③	手塚貴久(美浦)	111
7	⑩	リビアングラス	牡5	58	坂井瑠雅	アタマ	2-2-4-3	36.8	500(+6)	87.3⑬	矢作芳人(栗東)	111
8	④	ロードレルレイ	牡5	58	川田将雅	1¼	13-13-12-14	35.9	492(+6)	6.2③	中内田充正(栗東)	109
9	②	ドゥレツツア	牡5	58	横山武史	½	6-6-6-7	36.7	468(-)	6.7④	尾関知人(美浦)	108
10	⑧	ボルドグフージュ	牡6	58	内田博幸	クビ	9-10-11-10	36.2	504(-6)	57.5⑫	宮本 博(栗東)	108
11	⑦	レガレイラ	牝4	56	戸崎圭太	1¼	8-8-6-5	37.0	478(+10)	4.9②	木村哲也(美浦)	102
12	⑨	シュヴァリエローズ	牡7	58	北村友一	1½	16-16-16-16	36.2	466(-2)	253.9⑮	清水久詞(栗東)	104
13	④	ブラダリア	牡6	58	高杉吏麒	3	4-5-6-7	37.7	470(-6)	109.2⑮	池添 学(栗東)	99
14	③	アーバンシック	牡4	58	C.ルメール	クビ	14-14-12-10	37.3	512(-2)	10.6⑥	武井 亮(美浦)	99
15	③	ローシャムパーク	牡6	58	菱田裕二	1¾	9-9-9-10	37.8	498(-)	28.0⑨	田中博康(美浦)	96
16	⑤	ジュンテイク	牡4	58	藤岡佑介	4	2-2-2-3	39.2	492(+4)	210.3⑮	武 英智(栗東)	90
17	⑥	ヨーホーレイク	牡7	58	岩田望来	ハナ	6-6-5-5	38.9	526(±0)	8.8⑤	友道康夫(栗東)	90

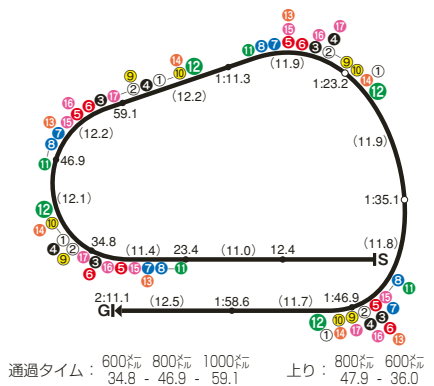
単勝①1,140円(7½) 複勝②370円(7½) ①160円(1½) ⑦640円(10½) 枠連①⑥880円(2½)

馬連①⑥2,370円(10½) ワイド①⑥960円(11½) ⑦⑥6,520円(60½) ①⑦2,080円(26½)

馬単②①5,380円(23½) 3連複①⑦⑥23,200円(79½) 3連単②①⑦127,550円(433½)

5重勝①⑤⑥⑦④40,855,250円(14票) 対象競走: 東京10R/阪神10R/函館11R/東京11R/阪神11R

第66回 宝塚記念 (GI)



アラカルト

- ・武豊騎手はディーブインパクトで制した06年に続く宝塚記念5勝目で単独トップの勝利数。JRA重賞は本年2勝目、通算365勝目
- ・石橋守調教師は宝塚記念初勝利。JRA重賞は本年初勝利、通算3勝目
- ・ゴールドシップ産駒はJRA重賞通算14勝目
- ・4歳馬の勝利は23年イクイノックスに続く通算37回目
- ・本競走での逃げ切り勝ちには08年エイシンデビュティ以来17年ぶり、通算9回目
- ・ローシャムパークの池添謙一騎手は、前日の函館競馬第11レースでの落馬負傷のため菱田裕二騎手に変更

メイショウタバル *Meisho Tabaru*

牡 鹿毛 2021.4.20生
北海道浦河町 三嶋牧場生産
馬主・松本好雄氏 栗東・石橋守麿舎
馬名意味・冠名+熊本県の地名

サイレーシUSA系 F8-h		
ゴールドシップ 芦毛 2009	ステイゴールド 黒鹿毛 1994	サンデーサイレンスUSA
		ゴールドンサッシュ
	ポイントフラッグ 芦毛 1998	メジロマックイーン バストラリズム
メイショウツバクロ 鹿毛 2010	フレンチデピュティUSA 栗毛 1992	Deputy Minister Mitterrand
	ダンシングハビネス 黒鹿毛 1999	ダンシンザダーク メイショウサチカゼ

5代までのインブリード：サンデーサイレンスUSA S3×M4

INTERVIEW

三嶋健一郎 取締役(三嶋牧場)

格別な思いが次々と浮かんできます

武豊騎手が絶妙なペースで馬を導いてくれましたし、メイショウタバルもきちんと折り合ってよく頑張ってくれました。長い間お世話になっている松本オーナーに、やっとJRA・GI勝利を贈ることができ本当に良かったです。この勝利に格別な思いが次々と浮かんできます。今年生まれた全妹はしっかりとした大きな仔です。順調に育ってくれることを願っています。

S.Setoguchi



一枚上のダッシュで飛び出し、自然と、残り1000m地点から11秒台のラップを刻んできたメイショウタバルもさらに加速。坂下で突き放したベラジオオペラの反撃を許さないまま、一人旅のゴールを駆け抜けた。

毎日杯を6馬身差で逃げ切り、スタッドムへ躍り出た本馬だが、皐月賞は暴走気味の大逃げを打って17着に大敗。秋初戦の神戸新聞杯で重賞2勝目を挙げたものの、好位に控えた菊花賞は16着、4歳初戦の日経新春杯も逃げて11着と、非凡なスピードのコントロールに苦しむ場面が目立った。しかし武騎手と初コンビを組んだバイターフ(5着)では後続を引き付けて逃げ、新境地を開拓。同様の逃げを打ったこの日は父譲りの「スピードの持続力」を見せつけ、戴冠を果たした。

父ゴールドシップ

北海道日高町 出口牧場生産 中央、仏28戦13戦(皐月賞^{G1}、菊花賞^{G1}、有馬記念^{G1}、天皇賞(春)^{G1}、宝塚記念^{G1} 2回、阪神大賞典^{G1} 3回、神戸新聞杯^{G1}、共同通信杯^{G1})、最優秀3歳牡馬、16年から供用
〔代表産駒〕**メイショウタバル**(本馬)、**ユーバーレーベン**(オークス^{G1})、**ウインキートス**(目黒記念^{G1})、**マイネルエンペラー**(日経賞^{G1})、**ゴールドンハインド**(フローラS^{G1})、**ウインマイティ**(マーメイドS^{G1}、忘れな草賞・L、オークス^{G1} 3着)、**コガネノソラ**(クイーンS^{G1}、スイートピーS・L)、**フェアエールング**(小倉牝馬S^{G1})、**ブラックホール**(札幌2歳S^{G1})、**マイネルグロン**(中山大障害J・^{G1})、**マイネルラウレア**(若駒S・L)、**プリムドール**(ステイヤーズS^{G1} 2着)、**マイネルモート**(中山金杯^{G1} 2着)、**サトノゴールド**(札幌2歳S^{G1} 2着)、**ウインピクシス**(クイーンS^{G1} 2着)、**マカオンドール**(京都新聞杯^{G1} 3着)、**メイショウブレゲ**(京都大賞典^{G1} 3着)

母メイショウツバクロ

北海道浦河町 三嶋牧場生産 中央12戦1勝、地方1戦1勝
(17 牝父マジェスティックウォリアーUSA)
メイショウメイスイ(18 牝父ノヴェリストIRE)中央7戦0勝、地方71戦14勝
(19 牝父キンシャサノキセキAUS)
ミニストーリー(20 牝父シニスターミニスターUSA)中央3戦0勝、地方27戦3勝
メイショウタバル 本馬(21 牝父ゴールドシップ)中央10戦5勝(宝塚記念^{G1}、神戸新聞杯^{G1}、毎日杯^{G1}、つばき賞)、首1戦0勝
獲得総賞金441,646,600円
メイショウヒンカク(22 牝父ロジャーバローズ)中央4戦0勝 ⑩
キミガハマ(23 牝父ディーマジェスティ)
(24 牝父アルイン)
(25 牝父ゴールドシップ)

祖母ダンシングハビネス

北海道浦河町 三嶋牧場生産 中央1勝
アモレヴォレ(05 牝父アグネスデジタルUSA)中央2勝、ロン(野路菊S^{G1})、ワールドスケール ⑩(猪苗代特別、唐戸特別)の母
メイショウカンパク(07 牝父グラスワンダーUSA)中央6勝(京都大賞典^{G1}、八坂S、不知火特別、柳川特別、福島記念^{G1} 2着、新潟大賞典^{G1} 3着)
メイショウツバクロ(10 前出)
メイショウタカタ(14 牝父アイルハヴアナザーUSA)中央3勝(境港特別)、障害1勝、地方2勝

スピードの持続力でGI初制覇

暑熱対策や梅雨時期の馬場状態等を考慮し、今年から2週間日程を繰り上げられた宝塚記念は、大阪杯を連覇したベラジオオペラ、有馬記念の覇者レガレイラ、菊花賞馬アーバンシックと、ファン投票の1〜3位選出馬が11年ぶりに揃い踏み。人気はベラジオオペラ、レガレイラ、大阪杯の2着馬ロードデルレイの順に続いたものの、その他の有力馬も小差のオッズにひしめき、上位拮抗の様相を呈した。そんな混戦ムードに断を下したのは7番人気のメイショウタバル。11年前の覇者ゴールドシップの産駒が念願のビッグタイトルを掴み取った。

体で先手を奪ったメイショウタバルの武豊騎手は、明け方まで降り続いた雨の影響が残る芝コース(稍重)にやや速いラップを刻みながらも、後続を引き付ける形でレースを先導。馬群の隊列が縦に延びていくなか、ベラジオオペラは4番手、レガレイラは中団に腰を落着ける。対して出足が鈍かったロードデルレイはアーバンシックとともに後方4、5番手を追走した。

3コーナーに差し掛かると、ベラジオオペラがいち早く進出を開始、快調に飛ばすメイショウタバルの外に並びかけて直線に向く。とはいえ、十分な手応えを残していた武騎手が追い出すと、残り1000m地点から11秒台のラップを刻んできたメイショウタバル